

## 第5回 ふくまる夢たまごセミナー

日時	10月16日(金)18:00~20:00		
場所	市庁舎6階第4会議室		
内容	講話 先輩に学ぼう PART2 「教師になるまでの道は1つじゃない。」		
	講師 池田市立池田小学校教諭	玉置 萌	先生
	「英語の授業づくり」		
	講師 池田市立北豊島中学校教諭	堺 聖里菜	先生

第5回ふくまる夢たまごセミナーは、教育実習中で参加できない塾生が多くいましたが、塾生8名が参加して開催されました。

講師には、一昨年度ふくまる教志塾生だった池田市立池田小学校の玉置先生と4年前ふくまる教志塾生だった池田市立北豊島中学校の堺先生をお招きしました。前回の初任者の先輩方のお話とはまた違った角度で自分の経験を踏まえながら、塾生に寄り添いながら「教師という仕事」について話していただきました。



### <教師になるまでの道は1つじゃない。>

玉置先生は、1度目の教員採用試験、講師時代、採用されてから現在、学生時代の不安という4つの柱で話してくれました。1度目の教員採用試験後、4月からどうなるのかという不安や焦りがあり悩んでいたという玉置先生。色々と考えた中、自分の中で出した結論は「今、できることに集中する!」。そこからは、筆記試験の勉強や学生時代しかできないことに取組んでいったそうです。講師時代は石橋南小学校の英語リーダーとして小学生の子どもたちに英語を教える中で学生時代には見えなかった教師の仕事を学んでいきました。年間の流れがわかることや英語リーダーとして全学年の先生、子どもたちと関わることができたことが自分の中で非常に学びになったそうです。そんな中で元々中

学校英語の先生をめざしていたのが徐々に小学校の先生になりたい気持ちが大きくなっていき見事、教員採用試験の合格を勝ち取り、今年度より小学校の担任の先生として教壇に立っています。採用されて教師の仕事には改めて「終わりが無い」と感じる反面「常に元気いっぱいの子どもたち」から元気をもらい、「子どもの言葉」に力をもらっているといいます。最後に塾生に向けて「たくさんの授業をみておく」「勉強しておく」そして「やりたいことはやる！」というアドバイスをいただきました。



英語リーダーという全学年に関わる立場と学級担任としての立場の両方を経験し、その経験をしっかりと自分のものにしていく玉置先生の姿がふくまる塾生時代よりさらに逞しく感じました。

### <英語の授業づくり>

自己紹介でまるで囃家のように塾生をどんどん惹きつけながら堺先生の話が始まりました。英語の授業についてと担任時代のエピソードという2本立てのお話でした。英語の授業については「進んで参加する」「友達を助ける」「友達から学ぶ」「とにかくチャレンジする」の4点を大切に授業をしているそうです。ラーニングピラミッドを提示しながら「人に教える・説明する」ということが最も学習定着率が高く、そのためにマイナス発言はしない。しっかりと相手の話を聞くことが大切だと話してくれました。



また、模擬授業として「新出英単語の学習」を実演してくださいました。笑顔で元気にテンポよく授業を進める堺先生に塾生はまるで中学生に戻ったようでした。英単語を繰り返し発声する工夫、ペアでの活動、生徒に自信をつけてもらうためのミニミニテスト等「子どものことを中心に考える」堺先生の工夫を感じられました。

担任時代のエピソードでは、学級作りが上手くいかなかった経験を具体的な例を交えて話してくれました。その反省から怒りすぎるのではなく、子どもの話をしっかりと聴くという姿勢に変わっていったそうです。生徒に「どうしたん?」「何かあったん?」というような声かけを少しでも気になったらするようにしているそうです。最後に「こんなに人に尽くし、人のためになる仕事はない!」というメッセージを塾生に贈ってくれました。

## <塾生の感想から>

- 授業づくりや授業以外の部分の話も聞くことができ、とても楽しかったです。堺先生の話は私が不安に思っていたことなので本当にためになりました。玉置先生の授業見学の方法も実践してみたいと思います。
- 講話を受けるこちら側の不安に寄り添っていただいた内容で、具体的にお話いただき心構えができました。「やってみなければ、何も始まらない」ということが自分の励みになりました。
- 堺先生の英語のミニミニテストがとても良く思いました。私は英語の単語テストにつまづき英語が嫌いになってしまったため、堺先生のように様々な角度から英語に触れかつ、点数を取りやすいテストで自信を育ててくれれば英語を苦手と感じることがなかったと思いました。
- 玉置先生の教師になる前の準備として1～6年生の教科書を見るということがとても参考になりました。自分も教科書を読んで流れをつかもうと思いました。
- 教師の良さ、しんどさどちらもリアルな経験をお聞きすることができました。私も「子どもたちのために」という気持ちを忘れずに頑張りたいと思います。
- 将来、壁にぶつかることを覚悟しつつ、お2人のようにやりがいを感じられるように頑張りたいなと思いました。